令和４年度　　富屋小学校　学校評価書

※　網掛けのない部分が評価計画、網掛けの部分が評価結果を受けて記入する。

１　教育目標（目指す児童像含む）

（１）基本目標

豊かな心と健やかな体をもち、自ら考え進んで学び、次代をたくましく生きる児童の育成

（２）具体目標（具体的な児童生徒像など）富屋の子：元気・根気・思いやり

○元気でやりぬく子　　○自分で考え進んで学ぶ子　　○仲間のために考えはたらく子

２　学校経営の理念（目指す学校像含む）

－地域に根ざし、児童が生き生きと活動する学校の創造－

富屋地区の特性は、恵まれた自然、豊かな歴史と文化、地域の人々の強い絆である。これらを基盤とした「潤いと活気あふれる学校づくり」に取り組み、児童が郷土を愛し、自立して力強く生きていくための「確かな学力・豊かな心・健やかな体」を育むこと目指す。

３　学校経営の方針（中期的視点）　※「小中一貫教育・地域学校園」に関する方針は文頭に○印を付ける。

（１）　地域の特性や教育力を生かした特色ある教育活動の推進

（２）　道徳科の授業や体験活動を中核に、自他の生命を尊重し、感謝や思いやりなどの豊かな心を育成するための教育活動の推進による、いじめを生まない指導の充実

（３）　自信や自己有用感を育成するため、積極的に児童一人一人のよさを認め励ます教育の推進により、居がいのある温かい雰囲気の学級経営等による、不登校を生まない支援の充実

（４）　学ぶ意欲の向上と基礎・基本の確実な定着を図り、主体的に学ぶ態度の育成とともに、学習課題をはっきり理解させ、見通しを大切にした「わかる授業」の一層の充実

（５）　基本的な生活習慣の確立と社会性の育成を図る児童指導の充実

（６）　自らの健康を大切にする能力や自己の安全を守る能力の育成

（７）　勤務時間を意識した働き方の推進と、教育公務員としての使命感と誇りをもって、自らの資質の向上に努める職員研修の充実

（８）　地域に開かれ、信頼される学校づくりの推進（地域はみんなの学校）

[晃陽地域学校園教育ビジョン]

「地域に根ざし，子どもが生き生きと活動する晃陽地域学校園」

－児童生徒の学習習慣の定着と学力向上を目指して－

４　教育課程編成の方針

（１）基本方針

・国、県、市の方針を受け、本校教育目標達成のための経営方針や努力点、学校評価の反省等を踏まえた編成

・基礎的・基本的な内容を重視しながら、創意工夫を生かした教育及び特色のある学校づくりを意図した編成

・カリキュラムマネジメントの視点のもと、教育活動全体を通して学校教育目標が達成されるような編成

（２）留意事項等

・教育課程全体のバランスを図りながら、学習指導要領のねらいが実現可能な指導時間の十分な確保

・問題解決的な学習や体験的な学習による、主体的・対話的で深い学びの実現と、思考力、判断力、表現力の伸長

・学習形態や指導体制の充実による、個に応じたきめ細かな指導の充実

・道徳科の授業の充実による、道徳的な判断力、心情、実践意欲と態度の育成

・外国語を通じて言語や文化についての体験的な理解と、積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度の育成

・総合的な学習の時間のねらいに即し、本校の特色を生かした横断的・総合的な学習や探求的な学習の推

進と指導の充実
・相互関連が十分配慮された特別活動の実施と、自発的・自治的活動を高める指導の工夫
・すべての教育活動を通した、好ましい人間関係の構築と生活指導の充実、および「宮っ子の誓い」の意識化、実践化
・県・市の人権教育基本方針に基づいた、人権尊重の理念についての理解
・「元気っ子健康体力チェック」の結果を踏まえた指導の、より一層の充実
・自他の生命を尊重し、健康で安全な生活を営む態度を育成するための、交通安全教室や避難訓練等の効果的な実施
・コンピュータや情報通信ネットワークなどの情報手段に慣れ親しみ、適切に活用できるようにする情報活用能力の育成
・ユニバーサルデザインの視点を取り入れた授業の実践と、インクルーシブ教育の理念を踏まえた特別支援教育の推進
・「宮・未来キャリア・パスポート」の活用による、自身の夢や目標を実現しようとする意欲や態度の育成
・地域に根ざした総合的な学習の時間「富屋ふるさと学習」の推進による、地域を愛し、大切にしていこうとする態度の育成

5　今年度の重点目標（短期的視点）※「小中一貫教育・地域学校園」に関する重点目標は文頭に〇印を付ける。

【学校運営】学校・家庭・地域の連携体制を基盤とした、地域に根ざした信頼と魅力ある学校づくりの推進【創意工夫と活力ある教育活動の展開】
【学習指導】〇自分で考え、進んで追究し、生き生きと表現することができる児童の育成
～基礎・基本を確実に定着させ、主体的に学ぶ態度を育てるための効果的な指導法の研究～
【児童生徒指導】〇生命の尊さを理解し、思いやりの心をもって正しく判断し、たくましく行動することができる児童の育成
【健康（体力・保健・食・安全）】〇健康的な生活習慣を身に付け、積極的に運動に取り組み、進んで体力を高めようとする児童の育成

6　自己評価（評価項目のＡは市共通、Ｂは学校独自を示す。）

※「小中一貫教育・地域学校園」に関する方針・重点目標・取組にかかわる内容は、文頭に〇印または該当箇所に下線を付ける。
※「主な具体的な取組」の方向性には、A拡充　B継続　C縮小・廃止、を自己評価時に記入する。

項目	評価項目	主な具体的な取組	方向性	評価
	Ａ１　児童は、進んで学習に取り組んでいる。 【数値指標】 全体アンケート 「児童は、授業中、話をしっかりと聞いたり発表したりするなど、進んで学習に取り組んでいる。」 における肯定的回答 ⇒児　童　８５%以上	①　ＩＣＴを活用した教材・教具の工夫や、課題解決のための話合い活動の場の設定を効果的に行う。 ②　朝の学習に「学力強化週間」や「チャレンジ学習」を設け、基礎・基本の定着と活用力育成を目指す。 ③　学校だよりや学年だより等を通して、協働的な学習の充実を図った授業や児童の取組についての情報発信を積極的に行う。	A	【達成状況】 児　童　９７．６　% ・「学力強化週間」や「まなびデイズ」を計画通り実施することができた。また、タブレットを効果的に活用することにより、自分から学習に取り組む態度が向上した。 【次年度の方針】 ・朝の学習の時間に基礎・基本を身に付ける問題や、活用力を身に付ける問題に取り組ませることにより、学力の定着を図る。 ・発表力に関し課題が残るため、発表力育成に取り組みたい。

目指す児童の姿	Ａ２　児童は、思いやりの心をもっている。 【数値指標】 全体アンケート 「児童は、誰に対しても、思いやりの心をもって優しく接している。」 における肯定的回答 ⇒児　童　８５%以上 ⇒教職員　８５%以上	①　道徳科の授業を通し、生命や人権を尊重する心や、人を思いやる心などを育てる。 ②　人権教育年間活動計画に基づき、全教育活動を通して人権教育を計画的に実施する。 ③　各種特別活動において、他との交流を深める活動を取り入れたり、人権週間での活動内容を工夫したりして相手の立場を考えて思いやる心を育む。 ④　学校だより等を通して、人権教育について情報発信を行う。	B	【達成状況】 児　童　８８．２% 教職員　１００% ・道徳の授業や学級活動の中で、お互いを認め合う場を設定してきたことで、児童の思いやりの心が育ってきた。 ・日々の生活の中で、互いの良さを認め合う場を意図的に設定したり、各種おたよりの中で、相手の立場を考えて活動する取り組みを紹介し、保護者への啓発活動をしたりする。 【次年度の方針】 ・特別活動において縦割り班を取り入れ、他との交流を深める活動内容を工夫し、相手の立場を考えて行動する取組を実施していく。
	Ａ３　児童は、きまりやマナーを守って、生活をしている。 【数値指標】 全体アンケート 「児童は、きまりやマナーを守って生活している。」 における肯定的回答 ⇒教職員　８５%以上 ⇒保護者　８５%以上	①生活当番を中心として児童の生活状況を確認し、重点的に指導するべききまりを設定し、全職員で共通理解して、きまりについての指導に取り組む。 ②「富屋小の生活のきまり」を作成し、ルールやマナーを指導し、定着を図る。 ③　児童の実態に応じた月ごとの生活目標を立て、家庭にも周知して、ルールやマナーに対する意識を高める。 ④　児童会活動などを通して児童自らきまりの意義を考え、守れるよう工夫をする活動に取り組ませる。	A	【達成状況】 教職員　７３．７% 保護者　９６．４% ・生活当番を中心として児童の生活状況を確認し、実態を共通理解して指導にあたったが、ルールに対する児童全体の意識は向上してきたものの、個人差も大きく定着には至っていない。 【次年度の方針】 ・ルールを焦点化して、児童と教師とで共有し、振り返りをすることで定着を図る。 ・児童会活動を活性化し、児童の主体性を生かしながら、ルールやマナーを定着させる取り組みを実施していく。
	Ａ４　児童は、時と場に応じたあいさつをしている。 【数値指標】 全体アンケート 「児童は、時と場に応じたあいさつをしている。」 における肯定的回答 ⇒教職員　　８５%以上 ⇒保護者　　８５%以上	①　教師自らが積極的に児童に声をかけ、日常から誰にでも元気なあいさつができる雰囲気を醸成する。 ②　具体的な場面でのあいさつの仕方について指導し、定着を図る。 ③　地域や保護者と連携したあいさつ週間を設定し、意識の高揚を図る。 ④　児童会での活動内容を工夫し、児童が主体的にあいさつについて意識できる場を設けていく。	A	【達成状況】 教職員　６８．４% 保護者　８８．４% ・肯定的回答は、昨年度より大幅に上回った。特に、あいさつ運動などで呼びかけたことにより進んであいさつができる児童が増えてきた。全体的には意識は向上しているが、個人差が大きく定着には至っていない。 【次年度の方針】 ・具体的な場面を想定したあいさつの仕方について指導し、定着を図っていく。 ・児童会などであいさつをテーマにしを行ったり、校内のあいさつ強化週間を設定したりと、児童が主体的な活動として捉えられる場を設定し、あいさつについて意識させていく。

	Ａ５　児童は、目標に向かってあきらめずに、粘り強く取り組んでいる。 【数値指標】 全体アンケート 「私は、夢や目標に向かって、あきらめずに、粘り強く取り組んでいる。」 における肯定的回答 ⇒児　童　８５%以上 ⇒教職員　８５%以上	①　児童の自己肯定感を高められるよう、児童相互に認め合う場を数多く設けるとともに、担任も認め励ます指導に努める。 ②　児童が粘り強く取り組む力を育むために、各教科の授業や行事において、児童が目標をもって取り組む機会を設けるとともに、目標の達成に向けて努力している児童を賞賛する。	Ａ	【達成状況】 児　童　８３．５% 教職員　８９．５% ・学校行事や学習や日常生活の面では、何事にも粘り強くあきらめずに取り組む様子に個人差が見られる。 【次年度の方針】 ・引き続き、児童の自己肯定感を高められるよう、新たに異学年交流の場を設定する等、児童相互に認め合う場を数多く設けるとともに、日々の授業で目標を明確に設定した授業に粘り強く取り組ませるようにしていく。 ・教職員は児童の個性を認め、励ましや賞賛を意識した指導に努めていくようにする。
	Ａ６　児童は、健康や安全に気を付けて生活している。 【数値指標】 全体アンケート 「児童は、健康や安全に気を付けて生活している。」 における肯定的回答 ⇒教職員　８５%以上 ⇒保護者　８５%以上	①　児童が自分の健康を管理できるよう、養護教諭と担任が連携した、保健指導や日常の生活指導を行う。 　特に、メディアの使い方の指導を強化する。 ②　健康を意識した望ましい食習慣の形成を図るために、栄養士と連携した給食指導や、アンケートを活用した食育だよりでの啓発を行う。 ③　危険を予測し自らの命を守り抜く行動力を育成するため、日常指導における安全指導を充実するとともに、交通安全教室、避難訓練等を計画的に実施する。	Ｂ	【達成状況】 教職員　９４．７% 保護者　８９．４% ・お便りや掲示物、会議等で健康に関する情報を発信し、教職員・保護者共に昨年度より結果が向上した。今年度は、コロナ禍が３年目になりマンネリ化している部分もあるかもしれない。 ・歩道の歩き方が不適切な児童が多い。また、日常生活での危険予測や防災の意識は継続した指導が必要である。 ・授業中の姿勢が悪い児童が一定数いる。 【次年度の方針】 ・引き続き養護教諭や栄養士と担任が連携し、保健指導や給食指導、日常の生活指導を、様々な形で行う。また、メディアの使い方と共に、姿勢指導を強化していく。 ・交通安全教室、避難訓練等を計画的に実施し、事前事後の指導を丁寧に行うと共に、通学路指導を取り入れる。 ・教職員による安全点検を引き続き行う。
	Ａ７　児童は、夢や目標をもって、社会に貢献できるよう努力している。 【数値指標】 全体アンケート 「私は、夢や目標に向かって、あきらめずに、粘り強く取り組んでいる。」 における肯定的回答 ⇒児　童　８５%以上 ⇒保護者　８５%以上	①　宮・未来キャリア教育年間指導計画に基づき、児童が自らのよさを自覚して夢や目標の実現に向けて取り組もうとする意欲や、望ましい勤労観や職業観を、全教育活動を通して意図的・計画的に取り組むとともに、キャリアパスポートを活用した家庭への啓発に努める。 ②　生活や総合の授業におけるふるさと学習を推進し、自分の住む地域のよさを知るとともに、地域の方との交流を図る。	Ａ	【達成状況】 児　童　８９．５% 保護者　７９．３% ・保護者について、昨年度の 75%より４ポイントほど上昇したが、数値目標には及ばなかった。これは、保護者がキャリアパスポートの趣旨を理解していないことも考えられる。目標や夢について、将来つく職業のように捉えている可能性もある。 【次年度の方針】 保護者に、キャリアパスポートの趣旨や、夢や目標とは、短期的な課題でもあることを周知する。児童が目標の実現に向けての意欲が向上するような取り組みを行う。 〔Ａ５　再掲〕

	Ａ８　児童は、英語を使ってコミュニケーションしている。 【数値指標】 全体アンケート 「児童は、外国語活動の授業やALTとの交流の際に、英語を使ってコミュニケーションしている。。」 における肯定的回答 ⇒児　童　８５%以上 ⇒教職員　８５%以上	①　外国語活動を通じて、言語や文化についての体験的活動を意図的に増やしていく。 ②　学校内におけるALTとの交流の機会を増やし、コミュニケーションを図ろうとする態度を育成する。	B	【達成状況】 児　童　８９．８．% 教職員　７８．９．% ・今年度は感染症対策により、日常的な交流によるコミュニケーションをとることができなかったが、授業では ALT と積極的に関わる場面を設定してきた。 【次年度の方針】 ・ALT との授業や日常的な交流によって、積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度を育てる。
	Ａ９　児童は、宇都宮の良さを知っている。 【数値指標】 全体アンケート 「私は、宇都宮の良さを知っている。」 における肯定的回答 ⇒児　童　８５%以上	①　生活科、社会科、総合的な学習の時間の授業における「宇都宮学」や、市内や地域での校外学習等において、学習内容に関連させながら児童が身近な地域や宇都宮市の良さに気付く指導に努める。 ②　教師自身が身近な地域や宇都宮市の歴史、文化、伝統産業、特産物等について理解を深められるように努める。	A	【【達成状況】 児　童　８５．０% ・「宇都宮学」の中で宇都宮の良さに触れることができた。生活科・社会科・総合的な学習の時間の授業において、児童は身近な地域の良さに気付き、宇都宮の良さと関連付けることができるようになってきた。 【次年度の方針】 ・生活科、社会科、総合的な学習の時間の授業や、市内や地域での校外学習等において、学習内容に関連させながら、地域の良さから宇都宮市の良さに気付く指導を充実させる。 ・校内においても宇都宮について興味がもてるよう掲示物等の工夫をしたい。
	Ａ10　児童は、ＩＣＴ機器や図書等を学習に活用している。 【数値指標】 全体アンケート 「児童は、ＩＣＴ機器や図書等を学習に活用している。」 における肯定的回答 ⇒児　童　８５%以上 ⇒教職員　８５%以上	①　GIGAスクール構想の趣旨を踏まえ、児童がコンピューターや情報通信ネットワーク等の情報手段に親しみ、適切に活用する能力を育成できるよう、授業において ICT 機器を活用する機会を増やす。 ②　各学年のその時期の授業内容との関連に配慮した教育図書の整備充実等、学校図書館の環境整備に努める。 ③　読書の時間や教師による読み聞かせの時間、図書便りの発行等を通して、児童の読書意欲を喚起する。	B	【達成状況】 児　童　９２．１% 教職員　１００% ・タブレットの導入により、様々な授業でＩＣＴ機器の活用を進めてきた。また、インターネットだけでなく、司書と連携して図書室の資料や、南図書館の貸出サービスを利用し、調べ学習なども積極的に行うことができた。 【次年度の方針】 ・児童がタブレットや情報通信ネットワーク等の情報手段に親しみ、活用する機会を一層増やし、適切に活用する能力を育成する。 ・司書と連携した図書室の資料を用いた調べ学習などの機会を増やしていくことで、図書資料の活用を促していく。

目指す学校の姿	Ａ11　児童は、高齢者に対する感謝やいたわりの心をもっている。 【数値指標】 全体アンケート 「児童は、誰に対しても、思いやりの心をもって優しく接している。」 における肯定的回答 ⇒児　童　８５%以上 ⇒教職員　８５%以上	①　道徳科の授業を通し、生命や人権を尊重する心や、人を思いやる心などを育てる。 ②　人権教育年間活動計画に基づき、全教育活動を通して人権教育を計画的に実施する。 ③　総合的な学習の時間・特別活動等で、交流の在り方を工夫し、地域の高齢者と交流し、振り返りの機会を設けて感謝の気持ちや思いやりの心を育む。	B	【達成状況】 児　童　８８．２% 教職員　１００% ・地域の高齢者と直接交流する機会がまだ少ない状況ではあるが、限られた活動の中で、かかわった方々への感謝の気持ちとともに、思いやりの心を実感することができた。 【次年度の方針】 ・感染症予防を徹底した上での交流の在り方について検討し、地域の方や高齢者への感謝やいたわりの気持ちを育てていく。
	Ａ12　児童は、「持続可能な社会」について、関心をもっている。 【数値指標】 全体アンケート 「環境問題や防災等の「持続可能な社会」について、関心をもっている。」 における肯定的回答 ⇒児　童　８５%以上 ⇒教職員　８５%以上	①　教職員自身の「持続可能な社会」についての知識を深め、児童へ自然や環境に関する各教科領域における学習、児童会活動での呼び掛け、学校生活での節電・節水など、日常指導を通して環境問題に対する関心を高め、環境と調和しながら生きる意識や態度を育成する。 ②学校での様々な取り組みを保護者へ啓発するために、各種おたよりで知らせる。	B	【達成状況】 児　童　９０．６% 教職員　８９．５% ・児童は、社会科や総合的な学習の授業において、また、学級での日常的な指導や避難訓練を通して環境問題や防災等の意識が高まってきている。また、委員会活動において、学校薬剤師による講話を聞くことで、SDGｓに関する知識を得ることができた。教職員については持続可能な社会に関する知識や意識について理解が足りていないところもある。 【次年度の方針】 ・教職員自身、持続可能な社会に関する知識や意識についてより一層学ぶ必要がある。そのため職員研修や月の目標等に盛り込んでいく。 ・学校で現在取り組んでいることや学んでいることが、「持続可能な社会」を実現することに繋がっていることに気付かせ、実感を持たせることができるよう、学校全体で指導を行っていくことで、知識のみでなく実践につなげていきたい。
	Ａ13　教職員は、特別な支援を必要とする児童の実態に応じて、適切な支援をしている。 【数値指標】 全体アンケート 「教職員は、特別な支援を必要とする児童や外国人児童の実態に応じて、適切な支援をしている。」 における肯定的回答 ⇒教職員　８５%以上	①　特別支援教育コーディネーターや児童指導主任を中心に、全校で特別な支援が必要な児童に対する共通理解を図り、一人一人のニーズを踏まえた支援を行う。 ②　特別支援学級の児童はもとより、通常学級においても、必要において個別の支援計画を作成し、それに基づく合理的な配慮を伴う指導に努める。	B	【達成状況】 教職員　１００% ・支援委員会や、ケース検討会議などを通して、個に合わせた支援の在り方について、組織的に対応してきた。 ・各担任が支援計画を基に、保護者に働きかけをしたり、ＳＣ等を活用したり、家庭と学校と連携して支援を行い、対応してきた。 【次年度の方針】 ・組織的な対応と、保護者との積極的な連携を今後も継続する。

	Ａ14　教職員は、いじめが許されない行為であることを指導している。 【数値指標】 全体アンケート 「学校は、いじめ対策に熱心に取り組んでいる。」 における肯定的回答 ⇒児　童　８５%以上 ⇒保護者　８５%以上	①　日ごろからいじめは許されない行為であることを指導するとともに、いじめゼロ強調月間で、スローガン募集やゼロリボン着用、いじめゼロ集会等を実施し、いじめゼロへの意識向上を図る。 ②　「生命尊重」「人権尊重」を重点項目とした道徳科の授業を各学年で実施する。 ③　学校での取組を学校だより・学年だより、HP 等で積極的に保護者に発信し、周知していく。 ④　教育相談などを活用し、全職員がいじめの早期発見に努め、迅速に組織的な対応を行い、保護者との綿密な連携の元、いじめの解消に取り組む。	B	【達成状況】 児　童　９７．６% 保護者　８９．７% ・いじめゼロスローガンを考え、自分事として捉えられるよう、それぞれが具体的なめあてを設定し、実践することを通して、いじめが許されない行為であることへの意識を高めた。 ・教育相談などを通していじめの早期発見・早期対応に努め、保護者と連携しながら常に学校全体で組織的に対応し、諸問題の解決を図った。 【次年度の方針】 ・引き続き、教育相談等を活用し、児童の気持ちに寄り添っていじめの早期発見、早期対応につなげていく。また、児童同士がより良い関係を築ける学級づくりを実践するなど、積極的児童指導に努めていく。
	Ａ15　教職員は、不登校を生まない学級経営を行っている。 【数値指標】 全体アンケート 「教職員は、不登校を生まないよう、一人一人の児童生徒を大切にし、児童生徒がともに認め励まし合う学級経営を行っている。」 における肯定的回答 ⇒児　童　８５%以上	①　児童の自己肯定感を高められるよう、児童相互に認め合う場を数多く設けるとともに、全職員で児童を認め励ます指導に努める。 ②　教育相談、Ｑ－Ｕ調査、欠席状況調査等の結果を活用し、不登校傾向のある児童の早期発見を行い、校内対策委員会を活用し、ＳＣなどの外部人材とともに全職員体制で対策を講じる。	B	【【達成状況】 児　童　９６．１% ・Ｑ－Ｕ調査をもとにＳＣによる学級のアセスメント研修を行うとともに、教師のかかわり方や具体的方策について学校全体で検討し、実践を重ね、学級経営に生かしてきた。 ・日々の学級や児童の様子について、全教職員が定期的に共通理解を図り、不登校傾向のある児童に対して組織的・継続的に対応してきた。 【次年度の方針】 ・今後も、個々の児童の自己肯定感を高める声掛けをするとともに、互いを認め合える学級経営について学校全体で取り組んでいく。また、教育相談等を活用しながら、不登校傾向のある児童や保護者への対応について組織的な対応を継続していく。
	Ａ16　教職員は、外国人児童生徒等の実態に応じて、適切な支援をしている。 【数値指標】 全体アンケート 「教職員は、特別な支援を必要とする児童や外国人児童の実態に応じて、適切な支援をしている。」 における肯定的回答 ⇒教職員　８５%以上	①　外国人児童について全校で共通理解を図り、必要な支援やニーズを踏まえた支援を組織的に行う。 ②　児童が、外国の文化に触れる機会を設け、それぞれの国のよさを尊重する態度を育む。	B	【達成状況】 教職員　１００% ・教職員は、特別な支援を必要とする児童の実態に応じて、適切な支援をすることができた。 【次年度の方針】 ・特別な支援を必要とする児童について、全職員が共通理解の下、支援を行う体制づくりを進めるとともに、個を尊重する態度を育成していく。

	Ａ17　学校は、活気があり、明るくいきいきとした雰囲気である。 【数値指標】 全体アンケート 「学校全体に活気があり、明るくいきいきとした雰囲気である。」 における肯定的回答 ⇒児　童　８５%以上 ⇒保護者　８５%以上	①　児童の自発的な集会活動や学校行事等を通し、望ましい集団づくりと個に応じた指導の充実を図る。 ②　特別支援学校や高齢者施設等との交流活動やホタル愛護、米作り、民話活動等、児童主体の「ふるさと学習」の充実を図る。 ③　コロナ感染症予防を踏まえた新しい生活様式を取りながらも、生き生きと生活ができるよう児童へ前向きな意識付けを図る。	B	【達成状況】 児　童　８６．６% 保護者　９４．２% ・ほとんどの児童が毎日登校し、安心、安全な環境の中で明るく生き生きと学習や生活をしている。 ・コロナ感染症予防を意識した生活に適応し、コロナを意識しながらも明るい雰囲気で過ごすことができている。 【次年度の方針】 ・引き続き、一人一人の児童理解に努めることで、個を認め望ましい学級集団つくりの充実を図っていく。 ・引き続き児童の自発的な集会活動や学校行事、また、学校支援ボランティアを活用した「ふるさと学習」の充実を図る。
	Ａ18　教職員は、分かる授業や児童にきめ細かな指導を行い、学力向上を図っている。 【数値指標】 全体アンケート 「教職員は、分かりやすい授業や一人一人へのきめ細かな指導をしている。」 における肯定的回答 ⇒児　童　８５%以上	①　授業のねらいや一人一人の課題を明確にし、板書の構造化や振り返りを工夫して、児童の思考や理解を深める授業の実践を図る。 ②　PDCA サイクルを活用して指導の改善を図り、一人一人への支援の充実を目指す。 ①　学年だより等を通して、協働的な学習の充実を図った授業や児童の取組についての情報発信を積極的に行う。	B	【達成状況】 児　童　９７．６% ・全教員が要請訪問の授業の検討や、１人１授業の参観及び考察に関わり、反省・指導を生かした。授業のねらいや一人一人の課題を明確にし、児童の実態に即した授業展開や振り返り、まとめ方を工夫して学力向上に努めた。 【次年度の方針】 ・学年だより等を通して、協働的な学習の充実を図った授業や、個に応じた授業への取り組みの発信を、引き続き行う。
	Ａ19　学校に関わる職員全員がチームとなり、協力して業務に取り組んでいる。 【数値指標】 全体アンケート 「学校に関わる職員全員がチームとなり、協力して業務に取り組んでいる。」 における肯定的回答 ⇒教職員　８５%以上	①　学校の諸課題への対応や、学校行事の実施等に、かがやきルーム指導員や学校司書業務嘱託員、ＳＣ等の専門性を生かしながら、全教職員が一丸となって「チーム富屋」を意識して取り組むよう努める。 ②　教職員一人一人の得意分野やよさを生かす組織運営に努め、困難を感じる業務について気軽に相談し、助け合いながら、同僚性を高めていく。	B	【達成状況】 教職員９４．７% ・重点課題に対して教職員が一丸となって取り組んだ。担任外の職員も含めた同僚性の高まりがあった。 【次年度の方針】 ・気軽に相談し、助け合いながら、「チーム富屋」を意識して取り組むよう努める。

本校の課題・特色	Ａ20　学校は、教職員の勤務時間を意識して、業務の効率化に取り組んでいる。 【数値指標】 全体アンケート 「学校は、教職員の勤務時間を意識して、業務の効率化に取り組んでいる。」 における肯定的回答 ⇒教職員　８５%以上	①　教職員一人一人が、自己の働き方を見つめ、勤務時間の効果的な使い方や業務の効率的な処理に努める。 ②　各種行事等の企画・運営及び授業・活動等においては、ねらいを明確にしながら、コロナの時代に応じた実施方法の工夫・改善を推進し、教職員の負担軽減を図る。 ③　学習情報システムをはじめとした各種システムを効果的に活用し、業務を効率的に進めるために支援員等を活用するなど教職員一人一人が負担の軽減を図っていくよう努める。 ④　「リフレッシュデイ」を意識することで日々の勤務時間を意識し仕事の効率化を図るよう努める。	Ａ	【達成状況】 教職員　６３．２% ・コロナ禍で削減された様々な活動が戻ってきたことにより、業務量増加を印象付けた結果となったことが考えられる。負担感を減らすような方法を考えていかなければならない。 【次年度の方針】 ・①についてはＩＣＴの活用により改善を図る。 ・②③を継続する。 ・④リフレッシュデイから、リフレッシュウィークに変更し、仕事の進捗状況に応じて、定時に退勤できるようにする。
	Ａ21　学校は、「小中一貫教育・地域学校園」の取組を行っている。 【数値指標】 全体アンケート 「学校は、「小中一貫・地域学校園」の取組を行っている。 における肯定的回答 ⇒教職員　８５%以上 ⇒保護者　８５%以上	①　あいさつ運動や中学校訪問、冒険活動教室での交流を円滑に行い、児童が中学校への期待をもつことができるよう努める。 ②　乗り入れ授業や部会ごとの業務連携などにより、教職員の交流・連携の充実を図り、教職員の資質能力の向上に努める。	Ｂ	【達成状況】 保護者　８９．５　% 地域住民８５．５　% ・具体的な取り組みを行い、数値目標を達成できた。 【次年度の方針】 ・今年度の取り組みを継続するとともに、保護者への啓発のため、小中一貫教育について、情報を発信し、周知に努める。
	Ａ22　学校は、地域の教育力を生かした特色ある教育活動を展開している。 【数値指標】 全体アンケート 「学校は、家庭・地域・企業と連携・協力して、教育活動や学校運営の充実を図っている。」 における肯定的回答 ⇒保護者　　８５%以上 ⇒地域住民　８５%以上	①　地域の人材や教育資源を有効に活用するとともに、人材の確保に努める。（富屋再発見、ホタル学習、学校田活動、地域施設見学、読み聞かせボランティア、民話活動等） ②　地域と連携した教育活動を推進する。（ファイトとみや、収穫祭） ③　地域協議会との連携により、学校運営の充実を図る。	Ｂ	【達成状況】 保護者　９８．８　% 地域住民　１００　% ・地域の方々の協力を得ることができ、数値目標を十分達成できた。 【次年度の方針】 ・引き続き保護者地域と連携を取りながら教育活動を実施する。

	Ａ23　学校は、家庭・地域・企業等と連携・協力して、よりよい児童の育成に取り組んでいる。 【数値指標】 全体アンケート 「学校は、家庭・地域・企業等と連携・協力して、教育活動や学校運営の充実を図っている。」 における肯定的回答 ⇒保護者　　８５%以上 ⇒地域住民　８５%以上	①　外部の人材や教育資源を有効に活用し、子どもたちの健全な育成を図る。(安全教育、性教育、キャリア教育等) ②　外部と連携した教育活動を推進する。 【Ａ２２①、②、③再掲】	B	【達成状況】 保護者　９８．８　% 地域住民　１００　% ・家庭地域と連携して数値目標を十分に達成している。 【次年度の方針】 ・前年度と同様の取り組みを継続。
	Ａ24　学校は、利用する人の安全に配慮した環境づくりに努めている。 【数値指標】 全体アンケート 「学校は、利用する人の安全に配慮した環境づくりに努めている。」 における肯定的回答 ⇒教職員　８５%以上 ⇒保護者　８５%以上	①　毎月安全点検を実施し、危険箇所については迅速な改善や修繕に努める。 ②　時期に応じて熱中症予防や感染症蔓延に対する予防などを図るため、保健指導管理に努めたり、養護教諭や栄養士の授業参加を推進したりする。	B	【達成状況】 教職員　９４．７% 保護者　９３．９% ・必要に応じた迅速な修繕や保健指導管理などが行われ、児童にとって安心、安全な環境の中で学習や生活ができている。 ・夏季には暑さ指数(WBGT)を用いて熱中症予防対策を行った。また登校前の検温や健康観察を徹底したり、手洗いや換気等、コロナ感染症予防対策を行ったりした。 【次年度の方針】 ・引き続き危険箇所について迅速な改善や修繕に努め、時期に応じて熱中症予防や感染症に対する予防に加え、食物アレルギー研修や心肺蘇生法講習を行う。
	Ａ25　学校は、学習に必要なＩＣＴ機器や図書等を整えている。 【数値指標】 全体アンケート 「児童は、ＩＣＴ機器や図書等を学習に活用している。」 における肯定的回答 ⇒児　童　８５%以上 ⇒教職員　８５%以上	①　GIGA スクール構想の趣旨を踏まえ、児童がコンピューターや情報通信ネットワーク等の情報手段に親しみ、適切に活用する能力を育成できるよう、ICT 機器の管理に努めるとともに、タブレットやクロームブックが活用できる環境を引き続き整える。 ②　各学年のその時期の授業内容との関連に配慮した教育図書の整備充実等、学校図書館の環境整備に努める。 【Ａ１０②再掲】 ③　読書の時間や教師による読み聞かせの時間、図書便りの発行等を通して、児童の読書意欲を喚起する。 【Ａ１０③再掲】	B	【達成状況】 児　童　９２．１% 教職員　１００% ・GIGA スクール構想の開始により一人一台配備されるタブレットを、児童が活用できる環境を整え、授業の中で活用した。 【次年度の方針】 ・教育図書の整備充実等、学校図書館の環境整備を継続していく。 ・タブレット端末をより効果的に利用ができるよう、情報交換や校内研修を積極的に行う。 ・ＩＣＴと図書資料それぞれのよさを生かしていきたい。

	Ｂ１　児童は、学校の授業や家庭学習に意欲的に取り組んでいる。 【数値指標】 全体アンケートにおける肯定的回答 ⇒児　童　８０%以上 ⇒教職員　８０%以上	①　教師は日頃、子どもの学習に対する意欲を高めるために教材研究を深めたり、授業改善に取り組んだりするよう努めている。 ②　「家庭学習強化週間」の取り組みを工夫し、家庭との連携を深めていく。 ③　宿題や自主学習など進んで取り組み忘れず提出できるよう支援する。	Ｂ	【達成状況】 児　童　８５．８% 教職員　８４．２% ・授業ではめあてを明確化し、それに沿った学習活動や振り返りを行うことを継続してきたが、学ぶ意欲の育成については個人差が大きい。 【次年度の方針】 ・引き続き各教科・学年に応じた授業改善に努め、児童の変容を教職員で共有し学ぶ意欲を高めていきたい。 ・家庭学習の習慣づけや意欲・意識を高めるためにスマイルネクストドリルやタブレットを活用した宿題や自主学習の工夫をしていく。
	Ｂ2 地域の様々な人々とのふれあいを大切にした活動を推進している。 【数値指標】 全体アンケート「様々な交流活動や運動会、収穫祭等の地域の活動に参加し、様々な人々とふれあっている。」における肯定的回答 ⇒児　童　８５%以上 教職員　８５%以上	①　富屋特別支援学校の児童・徳次郎保育園や山王認定こども園の園児・ﾃﾞｲｻｰﾋﾞｽｾﾝﾀｰや地区独居老人との交流、祖父母参観を通して、多様な人々とふれ合う機会を設ける。 ②　地域の特色を生かした運動会や収穫祭の内容を工夫し、様々な人々とのふれあいを深め、地域への愛着を深める。	Ｂ	【達成状況】 児　童　８８．２　% 教職員　９４．７　% ・数値目標を十分達成できている。①はコロナ禍ということで、各施設との、直接的な交流ができなかったがビデオレター等のやり取りを行ったり、講師をお呼びし、講話をいただいたりした。 【次年度の方針】 ・児童へのアンケート指標の示し方の中で、漠然としていた主語を「児童」に修正。 ・児童を評価の主体になるように文言を変え、実態を把握しやすくする。 ・運動会や収穫祭については状況をみながら以前の形に戻していくようにする。

〔総合的な評価〕

※「小中一貫教育・地域学校園」に関する方針・重点目標・取組にかかわる内容は、文頭に〇印または該当箇所に下線を付ける。

本校では、学校教育目標の具現化に向け「富屋の子：元気・根気・思いやり」を合言葉とし、明るく活気に満ちた学校、地域に根ざし、地域に開かれた学校を目標として教育活動に取り組んでいる。また、富屋地区の特性である恵まれた自然、豊かな歴史と文化、地域の人々との強い絆を基盤とした潤いと活気あふれる学校づくりに取り組み、郷土を愛し、自ら考え進んで学び、次代をたくましく生きる児童の育成を目指してきた。

・本年度は、保護者のほとんどの項目において肯定的回答の割合が昨年度を上回り、宇都宮全市の結果の割合も上回っている。特にＡ22、23「地域の教育力を生かした特色ある教育活動の展開」「家庭・地域・企業と連携・協力したよりよい児童の育成」については、肯定的回答が９８．８%であり、コロナ禍の影響により制限されていたかかわりが緩和され、「地域とともにある学校づくり」の有用性を改めて知る結果となった。また、Ａ9「宇都宮の良さを知っている」については、職員、保護者の回答において昨年を大きく上回ったが、児童は、市の平均の肯定的回答率に及ばなかった。学習で学んだ地域の良さを宇都宮の良さとして捉えられるような指導の充実が必要である。

〇Ａ5「児童は、夢や目標に向かってあきらめずに粘り強く取り組んでいる」に対しては、職員、保護者の回答において昨年を上回ったが、児童も含め市の肯定的回答率に及ばなかった。日々の小さな目標に対しての称賛を意識し、児童の自己肯定感を高めることで、大きな目標に向かって粘り強く取り組めるよう指導に努めたい。

〇持続可能な社会についての関心、あいさつについては、昨年度に比べ、大幅に肯定率が上がった。学校全体の大きな課題として職員が取り組んだ成果といえる。しかし、あいさつに関しては、職員・児童の評価において市の平均回答率には至っていないため、より一層教師からの働きかけを継続するとともに、児童主体の挨拶に関する取り組みを強化していくなど、さらなる取り組みが必要である。

・Ａ10、25「児童はICT機器や図書等を学習に使っている。」Ａ15「教職員は、不登校を生まないよう、一人一人児童生徒を大切にし、児童生徒がともに認め励まし合う学級経営を行っている。」Ａ18「教職員は分かりやすい授業や一人一人へのき

め細やかな指導をしている。」については、教職員・保護者・児童すべてにおいて昨年度よりも高い割合となった。教職員がチームとなって取り組んだ成果と捉え、今後も取り組みを継続していきたい。
・教職員の回答からは、勤務時間・業務の効率化に対する項目が課題となっている。いろいろな学校行事の見直しを行い、工夫してきたが、仕事量と勤務時間の平衡は保てない時が多かった。職員数が少ない環境において削減を含む仕事内容の見直しが課題といえる。

7　学校関係者評価

・本校の昨年度の結果と比較すると向上している項目が多く、学校全体で取り組んでくださった成果である。特に、人権や命を大切にしなければならないいじめ対策や不登校を生まないための取り組みに成果が見られ、地域としても安心している。小規模の学校であるからこそ見える子供同士の関係の把握や一人一人の個性を大切にした指導を今後も続けてほしい。
・昨年度からの課題であった「時と場に応じたあいさつ」は、多くの子供が自分からあいさつをすることができるようになってきていてすばらしいことだ。個人差が大きいという実態があるということなので、できない子に寄り添いながら、あいさつの大切さを教えてほしい。基本は家庭で教えることだと思うが・・・・。また、児童会等でのわくわくするような活動の工夫と、大人の率先垂範に期待したい。
・教職員の業務の効率化については、小規模校の職員数の限られた中で職務をこなさなければならないため、一人が受け持つ校務分掌が多いと思う。したがって、限られた勤務時間の中では終わらないことも多いのではないかと思われる。学校がやらなければならないこと、地域（家庭）と学校が協力してやること、地域（家庭）がやることを明確にしていくと、もう少し負担軽減ができ、業務が効率化できるのではないかと思われる。
・地域の教育力を生かした教育活動に関しては、各学年の生活科や総合の時間、読み聞かせや農業体験学習などで地域のボランティアが支援をしていることもあり、地域のもの・人・ことに触れる機会が多い。今後も地域の学校・子供たちのために協力をしていきたい。

8　まとめと次年度へ向けて（学校関係者評価を受けて）

※「小中一貫教育・地域学校園」に関する方針・重点目標・取組にかかわる内容は、文頭に〇印または該当箇所に下線を付ける。

全体として、昨年度より保護者の方から良い評価をいただくことができた。学校の自己評価や保護者、地域協議会委員の皆様から頂いたご意見を真摯に受け止め、次年度の方策について具体的に検討していきたい。

〈児童指導面〉

〇基本的生活習慣の向上については、あいさつを自然にできるようにする目標だけでなく、場に応じた正しい言葉遣いについて１年間を通して地域学校園で連携を継続していく。
・規範意識の醸成（きまりやマナーを守る）について、児童・職員と保護者の肯定的回答に差が見られるものについては、各種たよりでの取り組みの紹介や関連する教育活動への保護者参加を呼び掛けるなどし、家庭との連携を推進していく。

〈学習指導面〉

・基礎・基本を確実に定着させるため、児童の実態に即した授業展開に工夫して努め、児童は落ち着いて学習に取り組んでいるが、<u>学習時間や学びの質については個人差が大きいので、家庭の協力を仰ぎ、家庭学習の充実から授業への意欲的な取り組みにつながるようにしていく。</u>
・「GIGA スクール構想」における ICT 等の効果的な活用については、常に教職員の自己研鑽を重ね、分かる授業に向けた授業力の向上に努めていく。

〈健康体力面〉

・家庭や地域と連携した食育の推進（地産地消の周知　食育だよりの発行　お弁当の日）を継続していくとともに、食から得られた知識を生活や学習に結び付けられるような指導の工夫をしていく。

〈特色ある活動〉

・本年度は、コロナ感染症に対する制限も緩和され、地域の人々との強い絆を感じられた。今後も地域協議会を核とし、学校と地域が協力・連携し合って、郷土愛を基盤とした潤いと活気あふれる学校づくりに取り組んでいく。

〈その他〉

・教職員の業務の効率化については、学校がやらなければならないこと、地域（家庭）と学校が協力してやること、地域（家庭）がやることを明確にし、保護者、地域の協力を仰ぐとともに、学校行事の見直しや内容の工夫を行い、職員の意識改革、業務内容の見直しに取り組む。